

平成30年度

講評と対策

入学試験問題

四天王寺高等学校

国語

問題内容

配点

出題の意図

一 「修業論——
武道家としての坂本龍馬」
内田樹(光文社新書)

40点

坂本竜馬の逸話を題材として現代社会における「潜在的有用性」を生かす視点の重要性についてのべた文章。「具体—抽象」の関係に注意して筆者の主張を読み取る。

二 「赤西蠣太」
『小僧の神様・城の崎にて』から
志賀直哉(新潮社)

40点

江戸時代前期を舞台とした志賀直哉の歴史小説。シチュエーションを把握するとともに、登場人物の交流と心情の推移を読み取る。

三 「十訓抄」第十の二十
新編日本古典文学全集51(小学館)

20点

源博雅の笛「葉二」に関する説話。「鬼」をふくむ登場人物相互の関係を理解し、ストーリーの展開とその結末を読み取る。

各問題講評

【書き取り】

一の「卓越」「端的」(正答率60%)二の「支度・仕度」(正答率50%)の誤答は、ことばの意味を知らないので同音の漢字をあてたことによる。「支度」は「度」を思い浮かべないものが多かった。

【ことばの意味】

一の問二「真骨頂」(正答率60%)二の問二「閉口」(正答率30%)日ごろ使っていないことば(文章語)は前後の文脈から判断することになり、誤答が多かった。

【一】

問三 正答率70% 選択肢を選ぶときは末尾(述部)に注目するとよい。

問四 傍線部の説明問題。(B正答率40%)
多かった誤答は「滅している潜在可能性をあまりなく引き出す」。傍線②「それ」の指示内容だけで、「必須」の意味を反映させていない。

問六 空欄補充。テーマを表すキーワードを抜き出す設問。(正答率20%)
「プリコロール」は聞き慣れない語だが、本文1ページ21行目「ありものでやりくりする人」という定義文に気付くことがポイント。三か所の「X」すべてにあてはまるかをチェックしていない誤答が多かった。

問七・問八・問九 (正答率50%)
問七 具体→抽象化の設問 2ページ1～10行目の故事(具体例)と共通する「鶏鳴狗盗」の意味を考える。

問八 「すべての資源はAではなく、むしろBによって把握されるべきだ。」という筆者の主張を選ぶ。

問九 「そういうもの」の指示内容を選ぶ形式になっている。正解は「プリコロール」(ありものでやりくりする人)の重要性を説く筆者の主張に合致したもの。

【二】

問三 「完き物」の説明。正答率60%
傍線①を含む前文を見る。「小江に艶書を出す事」は「完き物」に「しみをつける気がした。」とあるので、「完き物」は「しみ」とは対照的な存在。5ページ20行目「その(小江の)美しさは清い美しさだと云う事もよく知っていた。」に注意。10字以内の指示があるのに5字の解答では不十分。

問四 説明問題(記述)。正答率60%
何に対して「成功」するのか、目的をはっきり表現することが必要。

・慣用的で古風な言葉遣いを理解できていない(注があるのに)ものが多かった。
(例) 臂鉄砲を食わず→「拒絶する」→誤「食べる」「もらう」
面目玉を踏みつぶす→誤「面目玉を踏む」など。
・目的と手段を明確に表現するための助詞等の使い方が上手くできていないものが多かった。

問五 抜き出し問題では字数制限が正解を導くヒントになることに注意する。(正答率80%)

問六 「地金」の文中での意味を問う設問。心情読解。(正答率45%)

・多かった誤答は「色気」「綺麗事」や「真実の情」(抜き出しミス)等。

・「地金」のことばの意味(本性・本心)がわかっていない。
問七 (正答率75%)・問八(正答率85%)

ともに心情把握問題。問七は「妙に」に注意する。
問九 内容合致問題(正答率80%)
多かった誤答はア。「卑屈」は言い過ぎ。「卑屈」のことばの意味を正確に知らないための誤答だと思われる。

【三】古文

問一 内容読解。(正答率60%)
多かった誤答は「いまだ見ぬ人」。設問の「正体は何ですか。」に注意する。

問二 指示語の問題。(正答率A40%B90%)
Aは「かれを取りかへて」とあるので、どちらかの笛に限定したものは誤り。

問三 古文の意味。(正答率85%)
問四 内容読解。(正答率30%)
多かった誤答はア。

問五 内容読解。(正答率80%)
問六 内容読解。「かく」の指示内容。(正答率60%)
「かれに行きて、この笛を吹きけるに…褒めける。」の意味を読み取る。

次年度入試 アドバイス

四天王寺高校の入試問題では、本文が長い文章も出題されるので、問題演習をするときに記述問題もきちんと書いて、時間内に解答する力をつけてください。本文が長いということば具体例 → 筆者の主張・登場人物の心情の変化、を読み取る力が要求されます。傍線部の近づくだけ見でどえす解答する。ではなく、傍線部のことばの意味、設問で求められていることを意識して、時間をはかって解答する練習を積むことをお勧めします。中学生の話言葉では使わない抽象的な概念を表すことばを用いた文章も出題されるので、新聞のコラムを読んで、現代社会の問題について考えたり、教科書で習った作家の他の作品を読んだりして、話言葉以外の文章語やちょっと古い言い回しに慣れてください。文章を読むスピードは、読書量に関係します。いろんな種類の文章に親しみ、辞書を引いて語彙を豊かにしてください。

古文では中学校の教科書で習わない古典文法の知識は出題されません。教科書に掲載されている古文を繰り返し音読することで、古典の文章に慣れてください。音読は最も有効な古典学習法です。

数学

問題内容

配点

出題の意図

1. 計算問題	20点	式の計算、因数分解などの基本事項の確認。
2. 連立方程式・文章題	16点	題意を理解して、正確に解くことができるか。
3. 確率	14点	工夫して能率よく解けるか。
4. 平面図形	20点	図形を様々な角度からみることができるか。
5. 2次関数と直線	15点	2次関数のグラフと面積を絡めて総合力を見る。
6. 空間図形	15点	空間図形のイメージを正確に理解しているか問う。

各問題講評

全体として、53%程度のでき具合であった。

- 50%の正答率であったが、全問完答したい問題である。(3)では、「共通因数でくくる」「組み合わせをつくる」で解ける。
- 50%の正答率であった。[1]の正答率は高かったが、符号のミスが見受けられた。しっかりとした計算力が試される。[2] (1)は正解であったのに、(2)で2次方程式を解けなかった受験生が多かった。すぐに分母を払うように心がけよう。
- 60%の正答率であった。(1)、(3)は「～でない確率」を1から引くという工夫で能率よく解ける。(1)では、奇数である確率を1から引くとよい。(3)では4分の1より小さい確率を求めて1から引く。(2)はこつこつと場合の数を調べる。
- 50%の正答率であった。(1)は正答率が高かったが、(2)、(3)の正答率は20%以下であった。(2)では、LPが角DLJの2等分線になっていることに気付くと、角の2等分線の比の定理が使える。(3)でも、DPが同じく角の2等分線になっている。
- 60%の正答率であった。(1)、(2)はよくできていた。(3)は等積変形の問題である。直線の式と放物線の式から y を消去して、2次方程式を作り、さらに解の公式を使う。この過程は、よく練習しておいた方がよいだろう。
- 45%の正答率であった。(1)はよくできていた。(2)では、Pが垂線の足になっていることに気づく。(3)は難しかった。点Pが四角形AEGCにあり、対角線EGの中点

をMとすると、PはAG、CMの交点になっている。

次年度入試 アドバイス

例年、中学1年から3年までの全分野よりかたよりなく出題し、「正確な計算力を身につけているか、基礎事項を理解しているか、題意を読み取り論理的に考えていくことができるか。」などをみる問題を作成している。正確な計算力と柔軟な思考力が試されるので、すばやく計算する練習と、すぐにあきらめずじっくりと考える練習を2つの柱として準備してほしい。三角形の相似、合同、面積、文章から連立方程式や2次方程式を立てて解く問題、立体図形、場合の数、確率などは、比較的よく出題されているので、特に力を入れて勉強しておこう。

ただし、難問を練習する必要はなく、標準問題を中心にどのような基本的事項が使われているのかを確かめながら勉強しておくことが最も有効な対策である。その際、ケアレスミスに注意してほしい。「符号のミス」、「比を書くときに、左右を間違っている」、「もう因数分解できないか」などに気をつけるよう心がけよう。

最後に、3年分くらいの過去の問題は必ず解いておこう。その際時間配分に注意し、時間不足で解ける問題ができなかったということのないようにしよう。

英語

問題内容

配点

出題の意図

I 長文（物語）	25点	英文読解と内容把握力をみる
II 長文（エッセイ）	24点	英文読解と内容把握力をみる
III 会話文	14点	対話形式の文の読解力をみる
IV 2文同意	10点	単語力と表現力をみる
V 整序	6点	英文の構成力をみる
VI 英作文	10点	英文の構成力をみる
VII 語彙	3点	単語力と表現力をみる
VIII アクセント	4点	音声の定着度をみる
IX 発音	4点	音声の定着度をみる

各問題講評

- [I] 宿題もせず遊んでばかりいる少年が、模範的な少年に変わる物語。問1は語形変化の問題であったが、現在分詞と過去分詞の使い分けができていない解答が目立った。問3ではthatの指示内容が前文にあることを把握しているものの、その部分の訳出に難がある解答が多かった。問4は英文和訳であるが、look upの意味が分かっていない解答が非常に多く、また、wordをworldと間違えて読んでいたり、letterを手紙と訳している解答が多く、満点はほとんどいかなかった。全体としては60%程度の出来であった。
- [II] スマートフォンが幼児の言語発達に与える影響に関するエッセイ。問1～3は比較的よく出来ていた。問4の並べかえは、more serious の後にstudiesがつかず、長い主語を把握出来ていない答案が目立った。正答率は10%以下であった。問5に関しては前パラグラフの第1文をしっかり読めていないのか、正答率は30%程度であった。この大問を最後に解いているのか、時間不足を思わせる答案が目立ち、全体としては45%程度の出来であった。
- [III] インタビュー形式での出題。満点も多く、よく出来ていた。80%程度の出来であった。
- [IV] 2文が同意になるように空所を補充する問題。2については正解が少なく、全く違う単語や入れるべき語が分かっても正しいスペルを書けていない答案が多かった。4は前置詞がinになっている誤答が目立った。また、5も正解があまり多くなかった。全体としては75%程度の出来であった。
- [V] 整序問題。正答率は85%程度とよくできていた。
- [VI] 状況を与えられた中での自由英作文。非常によく出来ていて90%弱の正答率。
- [VII] 語彙力を問う問題。3問とも正答率が低く、全く見当違いの単語を答えたり、スペルを間違えている答案が多かった。特に3はarのスペルがerになっている生徒がほとんどであった。
- [VIII] アクセントを問う問題。出題できる3音節以上の語は限られているせい、出来はまずまずであった。
- [IX] 出題されている語の全ての発音が分かっていないと正解がえられない形式であったため、正答率は低く、満点の生徒はわずかであった。VII～IXに関しては55%程度の出来であった。

次年度入試 アドバイス

長文問題ではボリュームがあるものを限られた時間で把握する力が要求されます。日頃から、同じレベルで様々な分野の英文に触れるように心がけましょう。また、国語力も必要となりますので、日本語での読書もお奨めします。文法・語法問題では基本的なものが出題されることが多いので、中学1～3年の教科書で学習する文法を繰り返し復習しましょう。また、教科書を何度も音読し、発音、単語の意味を正確に覚え、正しい綴りもできるようにしましょう。過去の問題も解いておくとい良いでしょう。

理科

問題内容

配点

出題の意図

1 気体の性質	14点	気体の基本的な性質を理解しているか、また目新しい項目についてその場で対応できるかを問うた。
2 動物の体のつくりと はたらき	25点	I. 単細胞生物の構造と水分調節、II. 消化と吸収、III. 刺激と反応について基礎的な知識と考察力を問うた。また、実験結果をグラフで表し考察するという科学的な力を養うことを目指した。
3 斜面を運動する物体	14点	位置エネルギーと運動エネルギーの変換ができるか。また、エネルギーと仕事の関係について理解できているかを問うた。
4 直列、並列回路の比較	11点	直列回路と並列回路での電流と電圧の関係を確認する問題。各抵抗での消費電力の大きさを比較できるかを問うた。
5 天気・太陽の動き・地層	25点	天気の移り変わり、太陽の日周運動と年周運動の正しい理解、柱状図からの地層の重なりと広がり判断する力を問うた。
6 硫酸バリウム沈殿生成の量関係	11点	粒子の数と濃度の関係、硫酸バリウム沈殿が硫酸イオンとバリウムイオンと1:1の対応でできることに気づくかを問うた。

各問題講評

- 70%位の正解率であった。気体の捕集法についてはよく出来ていた。燃焼後の気体については体積をよく考えていれば正答は可能である。
- 70%位の正解率であった。顕微鏡についてはよく出来ていた。(3)のi)では、表中空欄の値を計算し、正確にグラフにプロットできていない答案が目立ち減点となるが多かった。(3)のii)は考察問題であったが(3)のリード文とi)で描いたグラフから情報を正確に読み取ることが出来ない受験生が多く、正答率が最も低かった。(5)では人体の臓器(特に睪嚢と胆のう)の位置があいまいなため誤答となる人が多かった。
- 14点中11点くらいでよく出来ていた。物体が静止した位置が基準面より20cm高い位置にあることに注意して、位置エネルギーがどれだけ運動エネルギーに移り変わったか、また摩擦による仕事でどれだけエネルギーが失われたかを正確に理解したい。
- 概ね良くできていて、80%ぐらいのできであった。最後の明るさを問う問題で誤答が見受けられたが、しっかり数値を計算すれば正解できる問題である。並列と直列を比較する内容で典型問題であるが電源電圧が図1と図2で異なるので、各電球について電力を計算しなければならない。パターンで覚えず基本通りに問題を解くように習慣づけたい
- 62%ぐらいの正答率であった。教科書レベルの知識問題はしっかり押さえられていた。天体上での太陽の動きを見慣れない形の日時計上での影の動きに置き換えて考える必要がある(5)は正答率が低かった。(6)i)の作図では不整合面(X)より下の地層の傾きを正しく把握出来ている受験生が少なかった。
- 70%位のできであった。反応式をきっちり書くことが大切である。元の物質の化学式があやふやなため、係数なども連鎖的に間違った人が多かった。

次年度入試 アドバイス

以下に理科の対策を列挙しておくので、しっかり準備しよう。

☆中学の理科で学ぶ重要な「用語」や「化学式」、「単位」などを正確に理解すること。

☆特に本校では実験や観察に関する問いも多いので、教科書で扱われている実験については、実験操作の意味もしっかり理解し、積極的に実験を体験すること。またデータの処理に関し、グラフの作成や読み取り、計算力をつける学習を大切にすること。

実験結果や観察結果から考察する問題では、必ずそのヒントが問題中に含まれている。しっかり読み解くように訓練する必要がある。

☆生活の中で体験する身近な現象などに、日頃から関心をもつよう心がけること。

☆過去の問題を解いて「問題形式」や「解答方法」などに慣れるとともに、問題文をしっかりと読み取るトレーニングをすること。

☆記述題では、理科の用語を的確に用いるとともに、わかりやすい表現が出来るように心がけること。自分で文章を書いてみるのが大切である。また、誤字脱字にも注意が必要である。

社会

問題内容

配点

出題の意図

1 地理分野 (アフリカの地誌)	15点	アフリカの主要国について、それぞれの国の基礎的な知識や特色を問うた。
2 地理分野 (日本の主要都市と自然)	15点	日本の主要都市の特色と、その地域と関連が深い自然環境について問うた。
3 歴史分野 (縄文時代・江戸時代)	20点	縄文の暮らし、江戸前期の藩経営について、基礎的な知識に資料の分析を加味して出題した。
4 歴史分野 (欧米の市民革命)	6点	代表的な欧米の市民革命について、基礎的な知識を問うた。
5 歴史分野 (19世紀のヨーロッパ)	14点	19世紀のヨーロッパについて、基礎的な知識を問うた。
6 公民分野(時事問題)	10点	2017年の日本や世界での出来事に関する時事に関して問うた。
7 公民分野(政治・経済の問題)	20点	日本の地方自治・最高裁判所・社会保障制度・財政・株式会社に関して問うた。

各問題講評(具体的に)※()の%は正答率

- あまりなじみのない地域だったためか、正解率はそれほど高くなかった。また、統計資料や写真を読み取る問題などは用語を暗記しているだけの受験生は正答できなかった印象がある。(50%)
- 日本は受験生にとって身近で、自然環境も基礎的な発問だったためか、問6のグラフのデータの読み取り問題も含め、比較的正確率は高かった。(70%)
- A(縄文)に関しては問1(1)(4)と問4の誤答率が高かった。歴史を学ぶ姿勢として、知識の習得とともに、生活や環境についての関心を大切にしてほしいと思います。また、世界史の中での日本という視点を忘れないようにしてほしいと願います。B(江戸)については問6(2)の誤答が目立った。経済の基本的な仕組みに関心を持つこと、より注意深く資料を読むことを望みます。(65%)
- 問5の正確率が低かった。ある出来事の歴史上の意義をとらえ、その意義に関連付けて周辺の知識を正確に習得することを目指してほしいと思います。(60%)
- 問7の正答率が低かった。歴史上の1つ1つの小さな出来事が、どのようなもう一段大きな歴史上の出来事の中にあるものなのか意識してほしいと思います。(60%)
- 問1、問4の正確率がとくに低かった。人物名はわかっている、その人物の所属や、経済に関するの語句が難しかったのかも知れない。(60%)
- 全体的によく出来ており、特に問1は漢字間違いが少数いたものの正答率が高かった。細かな知識が必要な正誤問題の問3の最高裁判所の違憲判決・問4の社会保険の問題はやや正答率が低かった。(65%)

次年度入試 アドバイス

1・2【地理分野】

地名については地図を用いてその場所も確認しておくこと。統計資料は暗記ではなく、そこから内容を読み取る力が必要です。数字や地理用語を丸暗記するのではなく、データが意味するところを判断したり、関連する事柄やその背景まで考えを広げてください。「暗記する」のではなく「考える」のだという姿勢で学習に取り組んでください。

3・4・5【歴史分野】

教科書を用いて歴史的知識を「身につける」ということが、語句の定着にとどまらず、その「語句」の背景にある「暮らし」やそれをとりまく「世界」に対する興味や関心、分析、探究といった、より広く、深い知的活動であることを忘れないで学習に臨んでほしいと願っています。

また、教科書の本文の内容と共に、図版や年表にもよく目を向けてほしいと思います。

6・7【公民分野】

時事問題に関しては、様々な媒体などを通じて日々のニュースに関心を持ち、日本だけではなく、世界にも目を向けて学習をしてほしい。政治・経済に関しては教科書の本文だけでなく、表や欄外の部分も含めて正確な知識を身につけて下さい。

【全般】

地理分野・歴史分野・公民分野を全体的にまんべんなく学習することが求められる。暗記するだけでなく、文章や資料から読み取る力もつけてほしい。漢字を正確に書く力も必要。普段から教科書だけではなく、地図帳・資料集・新聞・インターネット等も活用して、幅広い知識を身につけるような学習をしてほしい。